

放送番組審議会議事録

- 1 開催年月日 平成 28 年 2 月 18 日 [水] 18:30～
- 2 開催場所 奄美市名瀬金久町 4 番 3 号 2 階 あまみエフエム会議室 にて
- 3 出席委員 委員総数 7 名 出席委員数 5 名

出席委員の氏名

楠田 哲、大山 綱治、島崎 仁志、指宿 俊彦、西加 清司

放送事業者側出席者名

麓 憲吾、丸田 泰史、作井 美由紀

4 議題

審議(「ラジオレター」について)

5 議事の概要

- (1) 審議(「ラジオレター」について)
- (2) 次回の審議議題について

6 審議内容

- (1) 番組内容の審議(「ラジオレター」について)

楠田委員長：

今回で、この審議委員での最後の審議になりました。

今回のお題は、「ラジオレター」です。みなさんからご意見を頂きたいと思います。

(圓山委員意見代読) ラジオレターは、私が東京在住の時に出演させていただき、島への思いを熱く語ったことを今でも覚えています。島を離れても島を思いながら頑張っているシマッチュ(=島人)にとっては、ふるさとにメッセージを送る機会をいただけてうれしく思いました。

出演者の人となりから、メッセージまで、電話でのかけあいの難しさも多々あるかと思いますが、素人一般人のらしさも出ていて、おもしろいと思います。某番組のように、出演してくれるシマッチュを出演者が紹介して行って、全国にいるシマッチュが数珠つなぎのように出演していけたらおもしろいですね。

出演した人が、番組のことを話したり、インターネットでもあまみエフエムが聴けると、全国、世界に広がっていくことと思います。

楠田委員長：

島を離れて、内地で頑張っているみなさんの話は、僕たちの励みにもなりますし、年をとって、関西奄美会の方々がしゃべってましたけど、50あたりから島のことを懐かしく思ったり、きちんとでき

るようになって、ようやく自分のことだけでなく、周りのことも見えるようになると思います。優しい気持ちになってきている自分も時々いたりしますので、島大好きだな、と気づいたので、すごい番組だと思います。

通常は、何時に放送しているんですか？

事務局 丸田：

通常、日曜日のお昼の「ヒマバンミショシーナ」の中で放送、その日の夕方に再放送をしています。

西加委員：

(携帯電話で出演した)関東宇検会は、電波の状態が悪くて、うまく聴けなかったのが残念でしたが、内地で頑張っている方の話とか、島にいる人へのメッセージは、優しい気持ちになれる番組だと思います。印象に残ったのは、声優をしている津曲さんでしたっけ？島にはない仕事をやっている、音楽活動だったり、島の子が興味を持ちそうな新しい分野で頑張っている人なんかの話が聴けたら、聴いてるリスナー若い子も、島に戻ってくるとは思いますけど、内地で頑張ってそこで何か得て、情報を得られると番組じゃないかと思いました。

島崎委員：

電波が悪いところは、逆に臨場感がある気がしました。「結いの心」という言葉が出て来たので、自分がやっているイベント(「結いの島キャンプ」と同じ名前)もあり、先輩方が島を思う気持ちが一緒なんだと改めて思いました。途中で歌が入ったのもよかったです。

このコーナーは、年齢の制限はあるんですか？

事務局 丸田：

津曲さんは、20代の若い子です。年齢制限は特にありません。

島崎委員：

僕も、実は出たことがあるんですけど。豪雨災害の時にボランティア活動して、その結果報告みたいなことを話しました。やる側は、緊張しますよね。それまで、島との距離間があったんですけど、内地にいる人たちをフォーカスすることで、かなり距離感が縮まる番組ではないかと思います。

それで、島に帰って来て、どういうスタジオでやっているとか、どういう状況でやっているかというのを見て、もっとラジオが好きになるのではないかと思います。

大山委員：

部連出身のお母さまが、呼びかけたりとか、聞き取りにくいところはあったけれども、総会をやっているイメージができる放送で、すごくよかったです。伊仙出身の中田さんの曲が流れたり、40代の頃からの思いも伝わってくる。22歳の彼の話も。(年齢が)幅広くやってますよね。島を離れた方々の思い、気持ち(を聴いて)、自分の気持ちをもう一度見直すことが出来る。再度共感できるのかな

と思って、また刺激を受けたところです。

2番目の関西の方、話的なところはとってはないけど、他のコーナーでもいいんじゃないかと思いました。せっかくなので、離れた形でのやり取りの方がいいんじゃないかと思いました。

小田原からしゃべってるんだらうな、とか。(電話の方がいい)

運動会の会場からお電話したときもありましたよね。そのときに「おもしろいな」と思いました。総会の臨場感があったり、運動会の空気感をどんどん取り入れたらいいと思います。

いい意味でのつながり。地元の人が再度いい刺激になる番組。続けてほしいと思います。

指宿委員：

昔、本土で働いている人に、「島に住んでいる人たちは、もっと頑張れ。なにしてるわけ？」と言われたことがあって、「自分たちも頑張っているんだよ」と思っていることがありました。本土にいる人は何をしているのかわからないという思いもあったので、ラジオを通して本土にいる人たちが頑張っているのを聴いて、とてもいいなと思いました。

我々の会社に、毎年奄美会から広告が来ます。誰が会長をしているとか、誰がいるとか情報がわかるんですけど、多くの方はそういった情報がわからないと思うので、「奄美会でこんな活動をしている」「あの人がこんな活動をしている」「あの人が頑張っているんだな～」という事がわかって、よかったです。

楠田委員長：

制作側からは何かないですか？

事務局 丸田：

島出身の方で、島外で活躍されている方をつなぐというところで、リレー形式じゃないですけど、紹介いただいたりとか、奄美会の方から紹介があったりとかしますが、若い方をみつけるのが非常に難しい。社会人にやっとなったよ、という世代を今後新しい分野としてつなげていきたいと思います。

事務局 麓：

各奄美会に若者がまだ参加していないということもあって(若い世代に出演依頼するのが難しい)。

西加委員：

自分が内地にいた時、若い時にはそういうこと(郷友会)にあまり感心がなくて、やっぱり年齢が上がってくると、懐かしさだとか、知っている人に会って安心感がありますよね。若いうちは、なかなか行かないかもしれないですね。

大山委員：

自分も、50代半ばになります。50代に入って初めて郷友会に参加するらしいですね。行ってみると、若い世代が非常に少ない。

若い時に、郷友会とかのつながりの情報が伝わっていない。ある程度年を重ねると、情報を得ているということを知りましたよ。

事務局 麓：

ここ4～5年は、若い世代が増えて来ているけど、少し前までは50～60代が青年部といって活動していたみたいです。

西加委員：

若い世代が増えて来た要因ってなんでしょうね？

事務局 麓：

卒業するまでに、そういう存在があると伝わっているといいですよ。

西加委員：

今は東京なんかで島のイベントをやるようになったことがあるんじゃないですか。昔は、島にいるのがちょっとダサいから内地に行って、というのがあったけど、島から行って「島いいや～（島、いいよね）」と再認識できて、関わりを持ったら楽しいっていうのがあるのかな。昔はそんなにイベントがなかったような気がします。

島崎委員：

20代前半のときに、夜ネヤ（東京で開催された奄美イベント）行きました。そういう時は、みんな集まりますよね。若い子が郷友会に入らないのは、ただ飲むだけで満足しているんじゃないですか。

大山委員：

若い世代に情報が送りにくいということで、逆にこちらに情報をください、島からだれだれが出て来てよという、情報のキャッチボールができればいいですよ。

楠田委員長：

普通の人でもいいんですか？でも、普通の人って出ないんですよ。裏方で頑張っている人たちを表に出したいですよ。

事務局 丸田：

成人式は、島は早めにやるじゃないですか。紬の日とかに、また帰って来たら「ラジオレター出てね」という声かけはしています。つながって、何をしているということを島の人に伝えたいと思います。

西加委員：

つなぐのは、海外でもいいんですか？

事務局 麓：

何度か、海外ともつないでいます。南カリフォルニア奄美会、中国奄美会と…
出身者でなくても、ゆかりがある人、2世だったり。

大山委員：

各市町村の観光大使で頑張っている人とつないではいかがですか。

島崎委員：

2世の方が、島が大好きだったりしますよね。

(審議委員、1年間の感想を述べ、閉会)

7 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

次回審議会までに改善に努める

8 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

① 自社放送:平成28年3月5日(土曜日)6:30～放送

② 書面の備置き:平成28年3月5日(土曜日)から、当該事項を記載した書面(議事録)を問う法人事務局へ
備置き、聴取者の閲覧希望に対応

③ インターネット:平成28年3月5日(土曜日)より当法人インターネットのホームページに転載

9 その他の参考事項 なし